

大阪有機化学工業株式会社	
2022年11月期 第2四半期 機関投資家向け決算説明会 質疑応答要旨	
日時	2022年7月8日(金) 13:00~14:00
開催場所	野村インベスター・リレーションズ株式会社 (東京都中央区大手町2-2-2; 野村証券 アーバンネット大手町ビル) *電話会議システム使用
当社出席者	・代表取締役社長 安藤 昌幸 ・取締役 執行役員管理本部長 本田 宗一
参考資料	「2022年11月期 第2四半期 決算説明会資料」(2022年7月7日開示)

※この資料は、電話会議における質疑応答の要旨をまとめたものです。

【質疑応答要旨】

Q-1	電子材料事業の、1Qから2Qにかけての動向について
A-1	1Qから2Qにかけて、電子材料事業のうち、表示材料の売上げが15%減少しました。パソコン・携帯・タブレットPCの市場が低迷して調整が入っていることが要因です。 半導体材料は売上高が7%減少しましたが、1Qの売上高があまりにも多かったので、反動が出たとみており、需要は引き続き旺盛な状況です。 営業利益の減少は、売上げの減少によるものです。
Q-2	電子材料事業の、下期にかけての市場環境と中長期的な見通しについて
A-2	下期の電子材料の環境は、あまり明るいとは言えないと感じおり、表示材料の低迷はもう少し長引くとみています。半導体は、民生用のDRAMが低迷し、秋口にかけて踊り場的な局面を迎えるとはみていますが、それが長引くとはみていません。お客様からのオーダーは引き続き旺盛な状況です。 中期的には、ArF材料が一部EUVに置き換わっていきますが、DRAMや先端のロジックでArFがもう少し活用されてくるので、ArFとしては、中期的なスパンでは減らないとみています。 当社におきましても、EUV材料は開発を加速しており、今後プラス材料になるとみています。上期のEUV材料の売上げは、すでに昨年1年間の売上高と同等になっています。 メタルレジストについては、今後の動向をウオッチしている状況です。
Q-3	上期決算の予定に対する全体感について
A-3	化成品事業は、インクジェットインキや光学粘着剤が好調に推移し、予想に対して若干のプラス。修繕費や減価償却費が想定より少なく、利益は予想より多くな

	<p>りました。</p> <p>電子材料は表示材料がほぼ予想通りで、半導体材料が予想を上回りました。</p> <p>機能化学品は、化粧品、機能材料、神港有機ともにほぼ予想通りでしたが、原料費・燃料費・電気代の上昇で利益率は下がりました。</p>
Q-4	EUUV 材料の先行きについて
A-4	<p>EUUV については、デバイスメーカーも積極的な投資をしてきており、それに伴って露光機なども伸びているので、EUUV の全体的なボリュームは増えていくとみています。当社は、メインの材料ではなく、機能を向上させる補助剂的な材料を開発していくというスタンスです。EUUV も開発が進んでいくと、ラフネスや感度などいろいろな問題が見えてきますので、それを補うような材料をレジストメーカーに提供していくという立場です。</p> <p>この先、2 ナノ以降に開発が進むと、メタルレジストや自己組織型レジスト、主鎖分解型レジストなど何が主力になるかまだ分からない段階です。その中で当社がどのような材料をご提供できるかというところを検討していきたいと思っています。</p>
Q-5	半導体材料の世界市場の伸びにする大阪有機の売上高の伸び、及び今後の生産能力について。
A-5	<p>2019 年から 2021 年で当社の半導体材料は約 1.5 倍に増えており、世界市場の伸び率と同様に伸びています。</p> <p>これまでの設備投資で 2025 年までは対応できるとみているが、上振れした場合にはさらに投資が必要かもしれない。今回の投資で増強する試験研究設備で試作をしながら 2025 年以降の状況の見極めをしていきます。</p>
Q-6	ディスプレイ関連の新規材料の状況は。
A-6	<p>有機 EL ディスプレイ用の光配向材料は、2020 年に上市して、2021 年上期までは順調に伸びてきましたが、お客様の都合などもあり、2021 年下期より生産はストップしています。</p> <p>QD-OLED、マイクロ LED、隔壁材などの材料もワークはしていますが、まだ売上げに貢献できる数量にはなっていません。</p>
Q-7	会計基準変更による影響について
A-7	<p>会計基準の変更による影響は 2 種類あり、1 つは受託製品の支給原料に関するもの、2 つ目はお客様に製品が移転した時点の認識によるものです。電子材料で影響を受けるのは 2 つ目のお客様への移転時点の認識によるもので、これまで指定倉庫に収めて、使用高ベースで売上計上していたものを、倉庫に収めた時点で売上を計上するようになりました。従って、差異が出た理由は納入量と使用量に若干差があったことに起因します。</p>
Q-8	表示材料の減速に関し、地域別の強弱と今後の予測について

A-8	<p>当社の表示材料は、台湾のお客様が主力で、その調整が大きな要因です。上海のロックダウンとの関連は不明ですが、トータル的に需要が減退してパネル価格が下がっていることが要因とみています。</p> <p>2Qで減速しましたが、3Qにかけてもう一段落ちると予測しています。</p>
Q-9	自動車塗料材料の2Qの状況と下期の見通し
A-9	<p>自動車塗料材料は2Qで調整が入り、2割くらい減少しました。3Q以降これ以上落ち込むとは見ていないが、急速に回復するともみていません。</p> <p>価格転嫁の状況は、1Qのナフサ値上がり分については概ね終了し、引き続き2Qのナフサ値上がり分の価格修正に動いている状況です。</p>
Q-10	<p>化成品の光学用粘着剤用材料は堅調で、電子材料の表示材料は減速している。差が出ている要因は。</p>
A-10	<p>表示材料はパネルメーカーと直接取引しているのでの調整がダイレクトに来ますが、光学粘着剤用原料はフィルムメーカーがお客様なのでワンクッションあることが原因かと思われますので、化成品のほうも下期に調整が入ることを懸念しています。また、向け先の地域が違う可能性もあると思います。</p>
Q-11	上期の設備投資が予定より少ない理由について
A-11	<p>工事に必要な計装機器などの納入が半導体不足で遅れていることが要因です。設備投資の内容は変更していません。</p>

以上